

## 木を守り育てる



小宮地区の寺岡にある「五柱神社」の大杉をご存知でしょうか？写真のように、社殿と比べるとその大きさが分かります。あきる野市の文化財にも指定されており、その存在感には圧倒されます。

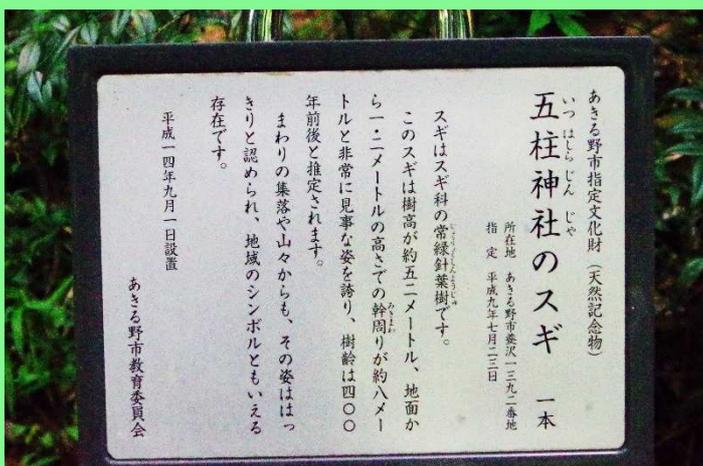
巨木を前にすると、多くの方から「この木の樹齢は？」と質問されますが、木の樹齢の判断はとても難しく、正確には分かりません。しかし、このスギは数百年の間、この寺岡を見続けてきたことは確かです。以前、雪で折れた枝の年輪から樹齢を推定した時は、470年前後となりました。教育委員会の表示でも樹齢400年以上となっていることから、大雑把に400～500年といったところだと思います。



以前、樹齢600年と言われるスギを20本ほど見て回ったとき、幹周の平均は7～8mでした。一方、このスギの胸高幹周は9.5mにもなり、もっと経っている可能性も十分に考えられます。

このような老木の樹勢衰退の大きな要因は、根の活力が低下して、梢端まで水を吸い上げられなくなることが挙げられます。そして、根の活力低下の大きな要因は「踏圧」です。踏圧とは、根株周りの土が踏み固められて、根の呼吸が阻害されてしまうことです。

最近では、五柱神社に訪れる方が多くなり、この踏圧が心配されるようになりました。人が巨木を前にすると、自然とその幹に手をかざして気(木)を貰います。この時、根株が踏まれ踏圧障害が起きてしまうのです。



あきる野市指定文化財(天然記念物)  
いっはらしんじや  
**五柱神社のスギ 一本**  
所在地 あきる野市安次一三九(五柱)  
指定 平成九年七月二日

スギはスギ科の常緑針葉樹です。  
このスギは樹高が約五二メートル、地面から一二メートルの高さでの幹周りが約八メートルと非常に見事な姿を誇り、樹齢は四〇〇年前後と推定されます。  
まわりの集落や山々からも、その姿ははっきりと認められ、地域のシンボルともいえる存在です。

平成一四年九月一日設置  
あきる野市教育委員会



そこで、寺岡自治会の方々が、このスギをよりよい形で後世に残していくために、根株を踏まれないように柵を作り、柵の中で根が露出している部分には、柵田状に土留めの丸太を設置し、客土もしました。

一番下は、ブロックを土留めにしましたが、割り竹で装飾して、自然の景観を損なわない配慮がされています。さらに、客土したところにリュウノヒゲの植栽も行いました。

まるで、日本庭園の造作のような出来上がりになりました。

そして、夕方まで掛かり何とか形になりました。作業された方々は、「この大杉を自分達の代で枯らすわけにはいかない、これで後世に引き継げる」と安堵の気持ちを口々に発して



解散していきました。

このスギが、ここまで育つのは奇跡だと思います。何故、奇跡かという、樹高60m近くあり、周りの木々の上に梢端が突き出ているのに、これまで500年近く、枯れるような雷が落ちていないからです。

森の中で木が枯れる大きな要因の1つが落雷です。例えば、300年前後のブナ林でも、落雷によりブナが枯れて、その開いた空間に新しいブナが生えてくるという天然更新システムが行われています。

本当に、そのような落雷被害を受けていないことは、奇跡だと思います。



← 2月の大雪で枝がかなり折れたのですが、根株の養生をしたためか、枝先の新芽が沢山出て調子が良いように見えます。

→ しめ縄の上に樹皮が沢山落ちて見えます。一見、病気のように見えますが、スギの活力が上がり、幹の肥大成長が活発になっていると考えています。要するに、すくすくと育つことで細胞分裂による新しい樹皮を作り出し木が太くなるため、古くなった樹皮を剥がして成長しているわけです。

寺岡自治会の皆様、本当にご苦労様でした。(杉野)

